

子供たちに伝えたい日本の良さ

今月のテーマ 江戸の三大大火

江戸の家屋の多くは木造建築であり、また、長屋などが密集していたために、一たび火災が発生すると、近隣を巻き込む火災となる可能性が高くありました。

「火事と喧嘩は江戸の華」と言われるように、実際、江戸時代は大火に多く見舞われ、中でも被害の大きかった「明暦の大火」「明和の大火」「文化の大火」は、江戸の三大大火と呼ばれています。本号では三大大火について取り上げます。

明暦の大火（振袖火事）

明暦3年（1657年）本郷丸山（現在の文京区）で、当時の江戸の大半を焼失するに至った大火災が発生しました。出火原因は、放火・失火の両説があります。この火災により、外堀以内のほぼ全域、天守を含む江戸城や多数の大名屋敷、市街地の大半が焼失しました。死者は諸説ありますが、3万から10万人と記録されています。



【むさしあぶみ 〔明和版〕 乾】
（都立中央図書館特別文庫室所蔵）

火災後、身元不明の遺体は幕府の手により本所牛島新田へ船で運ばれて埋葬され、供養のために現在の回向院が建立されました。この時、焼失した江戸城の天守の再建計画が立てられましたが、4代将軍徳川家綱は、天守の再建よりも「城下の復興を優先」することを考え、再建しませんでした。

明和の大火（目黒行人坂の大火）

明和9年（1772年）、目黒行人坂（現在の目黒区）の大圓寺から出火した炎は南西からの風にあおられ、麻布、京橋、日本橋を襲い、江戸城下の武家屋敷を焼き尽くし、神田、千住方面まで燃え広がりました。その後、東に燃え広がり、日本橋地区は壊滅状態となりました。この時、類焼した町は934町、大名屋敷は169屋敷、寺は382寺を数え、山王神社や神田明神、湯島天神、東本願寺、湯島聖堂等も被災しました。死者は14,700人、行方不明者は4,000人を超え、老中であった田沼意次の屋敷も類焼しました。

今でも残る貴重な文化財

火元とみられた大圓寺には、大火で被害に遭った方々の供養のために釈迦三尊・十六大弟子、五百羅漢の像等の大圓寺石仏群が建てられました。現在でも、目黒区の大圓寺で実際に見ることができます。



【現在の行人坂】

文化の大火（丙寅の大火）

文化3年（1806年）、芝・車町（現在の港区）の材木座付近で発生した火により、薩摩藩上屋敷や増上寺五重塔が全焼しました。炎は南西の強風にあおられて木挽町・数寄屋橋に飛び火し、そこから京橋・日本橋のほとんどもを焼失させ、その後、神田、浅草方面まで燃え広がりました。延焼した町は530町、焼失家屋は126,000戸、死者は1,200人を超えたと言われています。幕府は御救小屋を建て、多数の人に仮の宿と食事を提供しました。

火消しの仕事

「火消し」と聞くと、多くの人が火を消すことを想像すると思いますが、ポンプや消防車のない江戸時代では、火災発生時の火消しの仕事は、火災を最小限に食い止めることでした。

火消しは火を消すのではなく、火元を壊したり、隣の家を潰したりするなどして、燃えそうなものを先に壊し、火災の広がりを抑えていたのです。また、江戸時代は、火災が発生すると、火の見櫓の鐘を鳴らして危険を知らせていました。現在、火災の鎮火時に消防車が鐘を鳴らすことがあるのは、江戸時代に鐘を鳴らしていた名残となっています。



【半 鐘】
（消防博物館蔵）

大火の後には、道路の拡幅が行われたり、延焼防止帯や防火小路、日除け地・火消し制度が設置されたりし、大火による死者数は減少していきました。そのほかにも、防火組織の発足をはじめ、日常的な防火体制の重要性や地域住民による防災組織の推進、的確な避難指導など、現代に生かされていることが多くあります。

現在の法律のつながる^{ろう}牢屋奉行の対応

明暦の大火の際に、小伝馬町（現在の中央区）の牢屋敷にいた囚人の解放が行われました。本郷から出火した火が牢屋敷に近付くと、牢屋奉行の石出帯刀（いしでたてわき）は、このままでは囚人たちの焼死は免れないと考えました。牢屋奉行は町奉行の配下であり、牢屋奉行には、囚人の解放などの重要事項を決定する権限はありませんでした。しかし、石出帯刀は自らの切腹を覚悟して、独断で囚人解放を行ったのです。

石出帯刀は、三日後に浅草の善慶寺に集まるように伝え、囚人を解放します。この時、解放された囚人の数は、120 人程度であったと言われています。囚人たちは石出帯刀の行動に感謝し、全員が戻ってきたと伝えられています。この囚人の解放は、現代の法律に制度として生かされています。

以下は、「刑事収容施設法」の条文です。

（災害時の避難及び解放）

第二百十五条

留置業務管理者は、地震、火災その他の災害に際し、留置施設内において避難の方法がないときは、被留置者を適当な場所に護送しなければならない。

2 前項の場合において、被留置者を護送することができないときは、留置業務管理者は、その者を留置施設から解放することができる。地震、火災その他の災害に際し、留置施設の外にある被留置者を避難させるため適当な場所に護送することができない場合も、同様とする。

3 前項の規定により解放された者は、避難を必要とする状況がなくなった後速やかに、留置施設又は留置業務管理者が指定した場所に出頭しなければならない。

消防について学べる施設

○消防博物館（東京消防庁 消防防災資料センター）

【内 容】 江戸時代から現代までの消防の歴史に触れながら、防火・防災について学ぶことができます。

【利用時間】 午前9時30分から午後5時まで

（図書資料室は水・金・日の午後1時から午後4時30分まで）

【休 館 日】 毎週月曜日（国民の祝日に当たる場合は開館し、翌日休館。また、9月1日の防災の日、10月1日の都民の日、1月17日の防災とボランティアの日は開館）
年末年始（12月28日から1月4日まで）

【3階工事のお知らせ】

※平成28年12月15日（木）から平成29年1月20日（金）まで（予定）、3階の展示物入替え工事を行うことから、3階の一部が見学できなくなります。

【場 所】 〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目10番

【電 話】 03-3353-9119

【入 館 料】 無料

【交 通】 東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」2番出口直結
JR中央本線「信濃町」駅から徒歩約12分
JR総武線・中央本線「四ツ谷」駅から徒歩約12分
都営新宿線「曙橋」駅から徒歩約7分



伝統・文化に関するイベント等

★ 生活文化局

○江戸東京博物館「徳川将軍家の婚礼」

【期間】 平成29年2月19日（日）まで（開催中）

※休館日 1月23日・30日、2月6日・13日

【時間】 午前9時30分から午後5時30分まで（土曜日は午後7時30分まで）※入館は閉館の30分前まで

【内容】 東京都江戸東京博物館と公益財団法人徳川記念財団は、毎年、徳川将軍家に関わる企画展を開催しています。今回のテーマは「徳川将軍家の婚礼」です。13代、14代将軍御台所の篤姫（天璋院）、和宮（静寛院宮）の婚礼道具などから、徳川将軍家の婚礼についてひも解いていきます。
<http://sengoku-period.jp/>

○みんなで楽しむ日本舞踊の世界～The日本～

【期間】 平成29年3月4日（土）14時開演 ※体験コーナーは13時から

【場所】 日本橋劇場（中央区立日本橋公会堂）

【演目】 義太夫「釣女」

【内容】 日本舞踊・邦楽を楽しんでいただける公演です。三味線や太鼓などの和楽器、日本舞踊の舞台化粧や衣装の体験に加え、日本を象徴する演目を御鑑賞いただき、伝統芸能の楽しさを分かりやすくお伝えします。
http://www.tokyo-tradition.jp/program/p02_06.php

★ 都立中央図書館

○2020年に向けた新展示コーナーがオープンしました！

【場所】 中央ホール（1階）

【内容】 オリンピック・パラリンピックのほか、江戸・東京の歴史や文化等の知られざる魅力や、海外から見た日本を紹介する展示コーナーを新たにオープンしました。

（1）オリンピック・パラリンピックコーナー ～東京大会を盛り上げよう～

（2）伝統・文化コーナー ～日本・東京の魅力 再発見～

（3）Books on Japan（日本に関する洋書コーナー） ～日本のこと、もっと知ろう～

○企画展示「東京凸凹地形 一地形から見た東京の今昔」

【期間】 平成29年2月12日（日）まで（開催中）

※休館日 1月1日（日）～3日（火）・12日（木）・20日（金）、2月9日（木）

【時間】 午前10時から午後5時30分まで（金曜日は、午後8時まで）

【場所】 企画展示室（4階）※入場無料

【内容】 東京と聞くと、ビルに囲まれた大都市を連想するかもしれませんが。しかし地面に目を向けると、台地、坂、川、暗渠など、実に多様な地形が隠れています。本展示では、有名スポットから知られざるびっくり地形まで、東京の地形について図書や地図などの所蔵資料で御紹介します。

★ 産業労働局

○第60回東京都伝統工芸品展

【日時】 平成29年1月19日（木）から1月24日（火）まで 午前10時から午後8時まで

※20日（金）及び21日（土）は午後8時30分まで、最終日24日（火）は午後6時まで

【場所】 新宿高島屋11階 催会場（渋谷区千駄ヶ谷5-24-2）

【内容】 東京の職人たちが技を生かして作り上げた工芸品の展示・販売や、職人の技と伝統を体感していただける実演を御覧いただくことができます。詳しくはHPを御覧ください。
<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2016/12/14/11.html>

【テーマにおける引用・参考文献資料、写真提供】

- ・消防博物館 <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/ts/museum.html>
- ・都立中央図書館 <http://www.library.metro.tokyo.jp/>

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】 東京都教育庁指導部指導企画課
電 話 03-5320-6869
ファクシミリ 03-5388-1733